



# 羅針盤

## Market Forecasts by Y. san -11月-

### 10月予測の自己評価

### 鉄スクラップ;○ 銅;○ アルミ;○

#### 鉄スクラップ

10月のスクラップ価格は、東京製鉄宇都宮工場の特级価格50,000円/トンからスタートし、6日に500円/トン下げましたが、19日に5週間ぶりに価格上昇。11月に関しては、品薄状態ですが横ばいでしょう。

#### 銅

10月はLME7,600ドル/トン。国内銅建値1,150,000円/トンで始まり、27日時点はLME7,800ドル/トン、国内銅建値1,200,000円/トン。11月は、自動車の減輸入禁止、の可能性、大手自産、海外銅相場の続落から見て相場は下がるでしょう。

#### アルミ

10月のLMEは2,100ドル/トンスタートし、終値2,200ドル/トン。米国がロシア産アルミの輸入禁止、の可能性、大手自動車メーカーの減産からみて11月は横ばいでしょう。

#### 産業廃棄物

全国的に産廃の発生は減る傾向が続いております。一方で、この先も電気代の大幅値上げ、燃料の値上げも見込まれており、しばらくは厳しい状況が続くと思われます。気を引き締めて動向を見守りましょう。

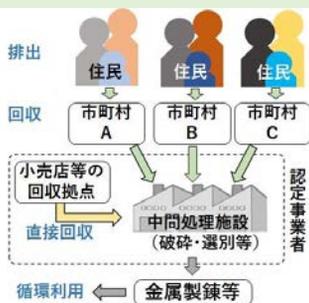
## Topics

### 小型家電リサイクル法の概要と回収・再資源化実績

今回は2013年(平成25年)4月1日に施行された小型家電リサイクル法(正式名称:使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律)のおさらい(概要)と、2020年(令和2年)度のリサイクル実施状況を環境省及び経済産業省のニュースリリースを参照してご紹介いたします。

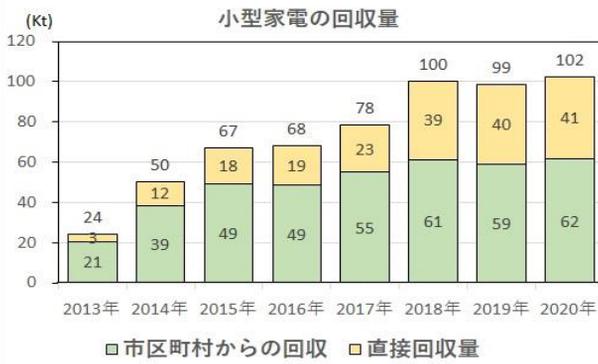
#### 小型家電リサイクル法の概要

- 使用済小型電子機器等の再資源化事業を行おうとする者(認定事業者)が再資源化事業計画を作成し、主務大臣の認定を受けることで、市町村等の廃棄物処理業の許可を不要とし、使用済小型電子機器等の再資源化を促進する制度です。
- 認定事業者は、使用済小型家電の広域的かつ効率的な回収が可能となるため、規模の経済を働かせ、採算性を確保しつつ、再資源化事業を実施することが期待されております。



#### 回収・再資源化実績

- 2020年(令和2年)度に、市町村及び認定事業者が回収した小型家電は102,498トン(前年度比4%増)となり、内訳は市町村による回収量が61,646トン(前年度比5%増)、認定事業者による回収量が40,844トン(前年度比2%増)でした。
- 目標は、2023年(令和5年)度までに年間140,000トンです。



- 2020年(令和2年)に認定事業者が引き取った小型家電は101,942トンとなり、うち2,009トンが再使用されました。また再使用された分を除いた99,933トンが認定事業者によって処理されており、うち再資源化された金属の重量は52,222トン(前年度比10%増)、再資源化されたプラスチックの重量は7,529トン(前年度比29%増)でした。回収した使用済小型家電の90%以上が再生利用され、残りの10%未満が中間処理残渣となりました。

## 編集メモ

\*トピックスの小型家電の回収・再資源化量については、本紙2015年7月64号で小型家電リサイクル法施行初年度の回収量を紹介しておりますが、今回紹介しました7年経過した状況で回収量は4倍強に達しております。このように、次世代へ少しでも良い環境を残すためには、身近な課題から可能性のあるものについては、何でも取り組むことが大事ではないのでしょうか。

\*11月と聞くとお正月が急に近くに感じられます。11月の年中行事には、古くから「お酉様」があります。若者にはなじみの浅い「酉の市」は、暦の中の十二支のうち11月に「酉」の日が何日あるかによって二の酉、三の酉と名付けられ、三の酉まである年は火事が多いと故事には書かれていますが、根拠はないそうです。今年はその三の酉まで(11/4, 16, 28)です。コロナ禍の規制が解かれたようです。きつと賑わうことでしょう。

## Series

### 私のゴルフ人生続編 第5回

営業管理部 長谷川武史



1991.10.20~21 関西予選の出場を懸けた九州地区予選会の開催日です。福岡県の名門、周防灘CCでした。日本ゴルフ協会公認のコースレート74.2(コースの難易度を示す数値)は通常72を超えると難しいコースであり、日本でも数える程の難コースです。パーシモン(木製ヘッドクラブで木材)全盛期の時代に7100ヤードを超える距離はとつともなく長く、この11年前の関西オープン(優勝スコア(杉原輝雄プロ)がトータル2オーバー。プロがオーバーパーで優勝ならば、研修生レベルの優勝スコアは5~7オーバーがいいと言われておりました。九州から集まった精鋭は120名。関西予選へ進めるのは上位30名のみの初日がスタート!周防灘からの予測不能の風と小さな砲台グリーンにより日によって難易度が上下するコースですが、初日は晴天・無風の絶好のコンディションでした。

私は前半の9Hを3オーバーの「39」と出遅れ、後半はパーレーの「36」でトータル「75」。120名中45位Tと合格圏外の厳しい1日となりました。トップは3アンダーで「69」、大きく6打差です。巻き返しを計る2日目一転小雨の中、吹き荒れる風と厳しいピンポジションの影響で各選手が軒並みスコアを崩す中、前半を2オーバーの「38」、残り9Hをパーレーで回り切れば絶対チャンスはあると自身に言い聞かせ、10Hのティーグラウンドに立ちました。その時気づきました。テントには坂田信弘プロ他の名立たるプロ数名が厳しい目でティーショットを見ていたのです。体が一気に硬直しました。何度か素振りをしていると「おう!レフティー(左利き)か!」「線は細いがいいスイングしてるな」と坂田プロからの思い懸けない声です。緊張はMAXに達しました!10Hは、左ドック(途中で左に曲がるコース)のロングホールで左がOBで、フェアウェイセンターから右に逃げるのが無難な攻め方ですが、逃げ過ぎると2ndショットはせり立つ大きな木が障害物となりパーディーはおろかパーセーブも難しい状況になります。ここで迷いが生じました。「ドライバーで左コーナーギリギリを攻めてショートカットするか?予定通り3ウッドでフェアウェイセンターから右に逃げるか?」一瞬、坂田プロと目が合いました。「攻めろ!ドライバーでショートカットを狙え!」と言わんばかりに私を見つけていました。私の迷いは吹っ飛びドライバーで思いっきり左コーナー目掛けて振り抜きました!結果は谷を超えたか微妙なところでしたが、「届いとらん!OBたい!暫定球を打つけ!」坂田プロの声がティーグラウンドに響き渡りました。案の定OB。このダブルボギーは予想外で大きな痛手でしたが、何故か残り8Hで巻き返そうとの気迫が漲っていました。残りを凌ぎに凌いで2日目は「76」。2日間では「151」ストロークの結果となりホールアウト時点では20位Tまで順位が上がっていました!後は後続組のスコアを待つのみです。待つこと3時間、最終組がホールアウトし掲示板に最終順位が張り出されました...関西予選出場のスコアは2日間合計「150」ストローク!緊張の一瞬。私は愕然としました!1打及ばず。33位Tで関西予選への出場権を逃したのです。タラレバですが10Hのティーショットを3ウッドでフェアウェイに置いておけば...ボギーでも関西予選への出場権を獲得出来たのにと...悔やみきれない思いが体中から湧き出てきました。

18歳の4月~23歳の10月までの5年半の研修生生活は幕を閉じる事となりました...後日談、その後のゴルフ人生については番外編にて。